

社会資本総合整備計画社会資本整備総合交付金

令和08年03月31日

計画の名称	弘前城下町の歴史的風致を活かした魅力ある街なみ景観の形成													
計画の期間	令和02年度 ~ 令和06年度 (5年間)												重点配分対象の該当	○
交付対象	弘前市													
計画の目標	弘前城下町地区の歴史的建造物の保全と活用及び良好な景観形成による街なみの整備改善を図り、市民や観光客が安心して訪れたい魅力あるまちづくりを目指す。													
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）		20	A	17	B	0	C	3	D	0	効果促進事業費の割合 C / （A + B + C + D）	15	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2当初	R4末	R6末
1	弘前城下町地区の主要観光施設入込客数を2,200,000人／年（R2）から2,291,000人／年（R6）に増加			
	弘前城下町地区の主要観光施設入込客数を調査する。	2200000人	2245000人	2291000人
2	立地適正化計画における居住誘導区域内の人口密度47人/haを維持			
	立地適正化計画における居住誘導区域内の人口密度を調査する。	47人/ha	47人/ha	47人/ha

備考等		個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
主要観光施設 弘前公園、 ねぶた村、 観光館、 藤田記念庭園、 百石町展示館、 旧伊東家、 旧岩田家、 旧笹森家													

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
住環境整備事業	A16-001	住宅	一般	弘前市	間接	民間	-	-	弘前城下町地区街なみ環境整備事業	景観重要建造物整備	弘前市	■	■	■	■	■	8		-	
	A16-002	住宅	一般	弘前市	間接	民間	-	-	弘前城下町地区街なみ環境整備事業	景観阻害屋外広告物除却補助事業	弘前市	■	■	■	■	■	1		-	
	A16-003	住宅	一般	弘前市	間接	民間	-	-	弘前城下町地区街なみ環境整備事業	歴史的風致形成建造物整備	弘前市			■	■	■	8		-	
											小計							17		
											合計							17		

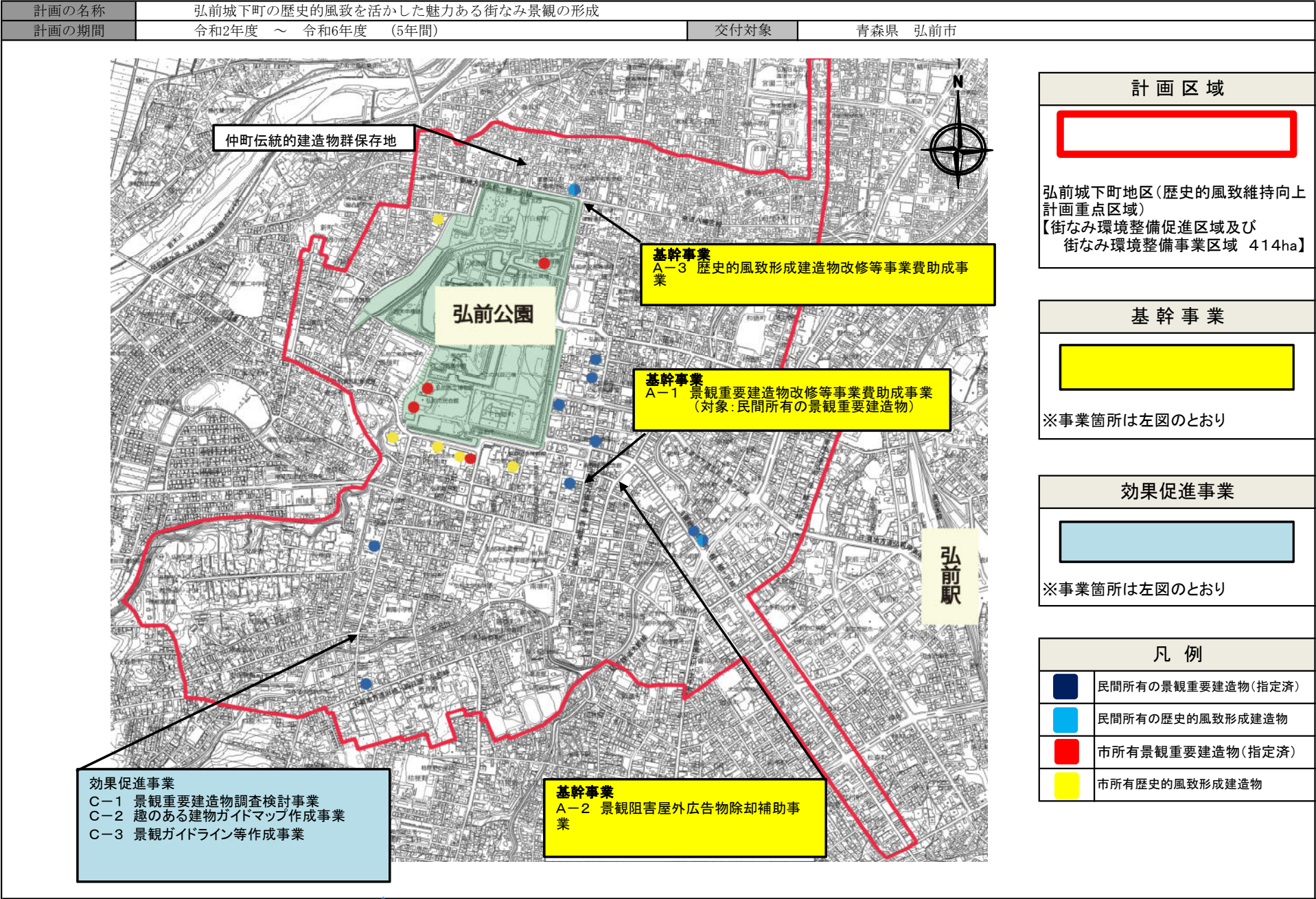
C 効果促進事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
住環境整備事業	C16-001	住宅	一般	弘前市	直接	弘前市	-	-	景観重要建造物調査検討 事業	景観重要建造物基礎資料作成 及び改修計画立案等	弘前市			■	■	■	2		-
		景観重要建造物の指定により適正な保存改修が実現し、市民や観光客にとって魅力ある歴史的な街なみの保全が図られる。																	
	C16-002	住宅	一般	弘前市	直接	弘前市	-	-	趣のある建物ガイドマッ プ作成事業	歴史的建造物の散策ガイドマ ップ作成	弘前市	■	■	■	■	■	1		-
		弘前城下町の回遊性が向上し、主に弘前市歴史的風致維持向上計画における重点地区内交流人口の増加と活性化が図られる。																	
	C16-003	住宅	一般	弘前市	直接	弘前市	-	-	景観ガイドライン等作成 事業	景観形成基準をわかりやすく 説明したガイドライン等の作 成	弘前市			■	■	■	0		-
		市民・事業者・行政の協働による景観づくりが推進され、歴史的な街なみ保全による良好な住環境の整備が図られる。																	
												小計						3	
											合計						3		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R02	R03	R04	R05	R06
配分額 (a)	2	1	2	2	3
計画別流用増 減額 (b)	0	0	0	0	0
交付額 (c=a+b)	2	1	2	2	3
前年度からの繰越額 (d)	0	0	0	0	0
支払済額 (e)	2	1	2	2	2
翌年度繰越額 (f)	0	0	0	0	0
うち未契約繰越額(g)	0	0	0	0	0
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	1
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0	0	0	33.33
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由	新型コロナウイルスの影響により民間事業者への補助事業の一部が実施できなかったことによる。	新型コロナウイルスの影響により民間事業者への補助事業の一部が実施できなかったことによる。	補助事業活用予定であった事業者が、急遽活用しないこととなり、不用額が出たもの。	景観阻害補助事業を活用する事業者が、当初の見込みより少なかったことによる。	補助事業活用予定であった事業者が、急遽活用しないこととなり、不用額が出たもの。

参考図面（社会資本整備総合交付金）



事前評価チェックシート

計画の名称： 弘前城下町の歴史的風致を活かした魅力ある街なみ景観の形成

事前評価	チェック欄
I. 目標の妥当性 上位計画との整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 景観形成を図るべき地域として位置づけられている又は位置付けられる予定である。	○
I. 目標の妥当性 地域の住宅・建築ストックや住環境整備の状況等、現状分析が適切になされている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題を的確に踏まえた目標となっている。	○
I. 目標の妥当性 緊急性の高い課題に取り組む内容となっている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業内容は、計画の目標を達成する上で適切なものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 十分な事業効果が得られることが確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業効果は、数値、指標等を用いて客観的に示されている。	○
II. 計画の効果・効率性 地域の実情に応じた創意工夫に基づく事業が盛り込まれている。	○
III. 計画の実現可能性 事業熟度が十分である。	○
III. 計画の実現可能性 計画内容に関し、住民に対する説明等が行われている。	○
III. 計画の実現可能性 事業の実施に当たり、自治会、商店組合など地元組織との連携が図られている。	○
III. 計画の実現可能性 計画期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。	○